

川崎市立橋高等学校の生徒が脱炭素社会やプラスチック資源循環の実現を目指す 事業者に対して、取組提案を実施しました！

川崎市立橋高等学校では、生徒がSDGsの実現に向けた視点で自分の興味や関心があるテーマについて課題設定し、探究学習を進めています。

今回、市立橋高等学校の生徒2、3年生が、事業者8社が抱えている脱炭素社会やプラスチック資源循環実現のための課題に対し、現状を調査・探究し、更なる取組の推進につながる解決策を各事業者へ6月23日（月）に提案しました。

今後、一部の提案については、11月13日（木）に開催される第18回川崎国際環境技術展の特別企画において、生徒たちから取組結果を発表します。

1 実施日時 令和7年6月23日（月）14時35分から16時25分まで（6，7校時）

2 会場 川崎市立^{たちばな}橋高等学校 全日制
（川崎市中原区中丸子562・校長 大川 一幸・全校生徒 818名）

3 出席者 川崎市立橋高等学校：2、3学年生徒（542名）
事業者：脱炭素アクションみぞのくち推進会議やかわさきプラスチック循環プロジェクトに参加している事業者など 8社

参加事業者	テーマ
株式会社川崎フロンターレ	ファン・サポーター、市民に伝える環境問題への取り組みに関する課題
川崎未来エネルギー株式会社	再生可能エネルギーが「当たり前」の世の中に
富士通株式会社	市民の環境行動がつくる脱炭素社会
株式会社丸井グループ	脱炭素アクション！マルイファミリー溝口の社会課題解決の取り組み
株式会社J E P L A N	みんな参加型の循環型社会！
味の素株式会社	「資源循環に向けた使用済みマヨネーズボトルの回収実証実験について」
キューピー株式会社	
アマタホールディングス株式会社	MEGURU STATION®について

4 生徒の主な提案内容

- マヨネーズボトルのリサイクルの促進アイデアとして、個人からの回収ではそれほど集まらないので、たこ焼き屋さんなどと協力して、お店で使ったボトルを回収する
- 電車の広告やSNSの活用、市内飲食店と連携したチップ制度の導入や市民向けワークショップを実施する

上記のような、事業者が実施している取組を知ってもらう方法やリサイクルの取組を広げる方法などについて、生徒から提案が行われました。また、以下のような学校教育への提案もありました。

- リサイクルに興味をもってもらうために、「牛乳パック」⇒「トイレットペーパー」や「ペットボトル」⇒「服」のように、「ごみや資源物」と「リサイクルした物」を組み合わせる「リサイクル神経衰弱」のゲームを学校教育に取り入れてみる。

5 これまでの経緯

令和7年4月	・環境局職員による学習ガイダンスを実施する。 ・2、3年生混成のグループで学習の進め方を確認する。
4月21日	・事業者が抱えている脱炭素社会やプラスチック資源循環実現のための課題について生徒たちに説明する。説明を受けて、生徒たちが話し合いながら探究課題や学習計画を策定する。
4月～5月	・生徒たちが調べ学習や課外学習を通して現状を把握し、課題解決に役立つ情報を収集する。 ・収集した情報を比較、分類、序列化、関連付けして考え、生徒たちが課題解決策について話し合う。
6月	・生徒たちが課題解決策の妥当性を検討し、必要であれば再度情報の収集を行う。 ・情報の収集、整理・分析そして課題解決策まで、一連の学習内についてまとめる。
6月23日	・生徒たちが課題解決策等を事業者に発表。事業者からフィードバックを受ける。

6 当日の写真



生徒から事業者への提案発表① 生徒から事業者への提案発表② 事業者から生徒へのフィードバック

7 事業者コメント

- 高校生ならではの発想で、サステナブルを楽しく遊びながら学ぶワークショップを提案してもらえました。今後、ホームゲームで実現していきたいと思います。(株式会社川崎フロンターレ)
- 授業を機に、若者らしく探求を深め、未来を切り拓くことを期待する一方、若者へ良い形でバトンを渡すのは我々大人の責任だと改めて感じました。(川崎未来エナジー株式会社)

8 生徒コメント

- ごみ問題は今現在も大きな課題ですが、将来的な課題でもあったと感じました。今後も、SDGsに関心をもって、自ら行動できるようにしていきたいです。今回の学習を通して、視野を広げることができました。(2年生)
- 再生可能エネルギーの普及はこれからの世界には欠かせないものだったと思うので、しっかりと関心を持ち、身の回りで出来ることであれば積極的に取り組みたいです。今回お話を聞いた事業者が取り組んでいることは、他の環境課題の解決にもつながると思うので生かしていきたいです。(3年生)

9 今後の予定

一部の提案について、11月13日(木)に開催される第18回川崎国際環境技術展の特別企画において、市立橘高等学校生徒たちから取組結果を発表します。

【問合せ先】

（探究学習に関すること）

川崎市教育委員会事務局 教育政策室政策推進
富田 電話 044-200-2838

（脱炭素、資源循環等の環境の取組に関すること）

川崎市環境局企画課
内田 電話 044-200-2385

※「川崎国際環境技術展」については、
下記にお問い合わせください。

川崎市経済労働局イノベーション推進部
児島（こじま） 電話 044-200-3213

1 脱炭素アクションみぞのくち

川崎市は、令和2年2月に2050年の二酸化炭素（CO₂）排出実質ゼロを表明し、同年11月には高津区溝口周辺地域に脱炭素モデル地区「脱炭素アクションみぞのくち」を創設しました。

同地域で脱炭素化に資する身近で先進的な取組を集中的に実施し、その効果や利便性を実感してもらうことで、市民一人ひとりの環境配慮型のライフスタイルへの行動変容促進を促し、脱炭素社会の実現を目指します。



<https://carbon0-mizonokuchi.jp/>

※活動紹介リーフレット



2 かわさきプラスチック循環プロジェクト

川崎市では、プラスチック資源循環に向けて、市民、事業者、行政のあらゆる主体が積極的に取り組むためのプラットフォームとして、「かわさきプラスチック循環プロジェクト」を設立しています。



「かわさきプラスチック循環プロジェクト」
の取組内容

3 川崎国際環境技術展

川崎市では、最先端の環境技術について幅広く展示を行い、出展企業・団体と国内外の企業等とのビジネスマッチングを創出する場として、「川崎国際環境技術展」を開催しています。



「川崎国際環境技術展」ホームページ

昨年度の開催の様子